

<牧会ミニ通信>No.6

依然として不安の絶えないコロナウイルス感染が続いています。今や地球全体が「いのちの危機」に直面しているとも言えます。この深刻な状況の中にあっても、いのちを守るために最善を尽くして、祈りによる連帯と神への信頼に思いを深めたいと思われます。全国各地の諸教会は様々な方法を用いてキリストにある繋がりを確かめて、守り続けています。

先が見えない心配はありますが、このような緊急非常事態であればあるほど神に対する信頼、神に対する信仰が問われていると思われます。

私たちはキリストに対する信仰と祈りによって結ばれている「神の家族」であることを、いままで以上に確認し実証していかなねばなりません。

わたしが守られていると安心するだけでなく、悪性コロナの感染を受けた方々の一日も早い回復を祈らねばなりません。また、生活上の不安をかかえておられる方々、不幸にも亡くなられた方々、多くのご家族に対して慰めを祈らねばなりません。

さらに、社会の最前線で働いておられる方々―社会福祉施設、医療施設、高齢者施設、幼稚園、保育園等で献身的に働いておられる関係者のためにも祈らねばなりません。また、ご高齢の方々、子どもたち、孤独や孤立を余儀なくされている方々の命が守られる事を祈るように導かれています。この際、キリストの体なる共同体の素晴らしさを深く心に刻み込まねばなりません。救い主キリストが授けてくださった「主の祈り」は、「わたしの祈り」ではありません。「わたしたちの祈り」であります。そのことを心にとめて、すべての人を覚えて祈り続けたいと思います。私も周東のみなさんのため祈ります。皆さまも祈りに加わってくださるようお願い申し上げます。

「やっぱり一人がよろしい・雑草」「やっぱり一人はさみしい・雑草」(山頭火)。

周東のぞみキリスト教会：牧師 結城 晋次